

ホウレンソウ ホウレンソウケナガコナダニについて



図1 株への被害



図2 多発圃場



図3 芯部への密集



図4 成虫

1 生態

ホウレンソウケナガコナダニ（コナダニ科）は、ホウレンソウの新芽や新葉を著しく加害する。なお、キュウリ、メロン、カボチャ、トマトの育苗期においても被害の報告がある。

成虫は体長約0.3～0.7mmで、体色は乳白色、半透明であり、胴部背面に長毛を有する。

本虫は卵、幼虫、若虫（第一及び第三）を経て成虫になる。卵から成虫まで発育所要日数は20℃で約20日である。比較的低温を好み（発育零点7.0℃）、温度が高くなるにつれ産卵数及び孵化率は低下する。また、高湿度を好み、湿度66%以下は生存に適さない。本虫は、土壌表面から5cmまでの浅いところで主に生息する。ホウレンソウの本葉2～4葉期ごろから株に侵入・加害する。加害を受けた葉は展開するとともにこぶ状の小突起が生じ、縮葉し奇形となる。中心の葉には加害により小さな穴があき、その周囲は褐変する。発生が多い場合は加害により新芽が黒変し心止まりとなり、商品価値を失う。本虫による被害は、雨よけ栽培で多発し、露地栽培では少ない傾向がある。雨よけ栽培の場合、乾燥する箇所での被害が多い傾向がある。2葉期から収穫までの生育期間が短い品種では、生育

期間が長い品種と比べ被害が少ない傾向がある。

2 発生状況

発生時期は、春期（3～6月）と秋期（9～11月）に多く、高温で乾燥する夏期（7～8月）には被害が少ない。コナダニの増殖源となる有機質資材を投入した場合に、発生が多くなる。春期、秋期の前作でコナダニ被害が発生した場合は、次作も被害が頻繁に発生する。

3 防除対策

（1）耕種的防除

投入する堆肥は完熟したものを用い、本虫の増殖源となる有機質資材を使用しない。

2葉期～収穫までの生育期間が短い品種を選択する。

ほ場の過乾燥を避ける。

（2）薬剤による防除

本葉2～4葉期に地上散布剤による防除を行う。また、土壌くん蒸剤等による土壌処理を実施する。